



中央地区社会教育情報誌「つなぐ」No.59号をお届けします。

前回の58号から、県教育庁生涯学習課の中央地区における取組と中央地区9市町村が今年度重点事項として取り組んだ事業等について紹介しております。

今号では、秋田市・にかほ市・大潟村・県教育庁生涯学習課の取組を紹介します。

秋田市

秋田市太平山自然学習センター事業について

1 学校教育利用

当センターでは、秋田市内小中学校の宿泊体験学習を受け入れており、児童生徒が所属感を味わいながら仲間と協力することの大切さを学び、自然への興味・関心を深める重要な機会となっています。また、利用申込みがあった秋田市内の特別支援学校及び秋田市外の中学校についても受け入れ、学びの機会を提供しています。

○R7利用実績 55校 4,222人 (R7.11月末現在)

2 一般利用

一般の利用は、学校教育利用や主催事業等がない日に受け入れており、保育所等のお泊まり保育、各種団体の合宿やレクリエーション等に利用されています。

○R7利用実績 ・宿泊 23団体 598人 ・日帰り 15団体 534人 (R7.11月末現在)

3 主催事業

令和7年度は対象を三つに分け、小中学生3事業、家族4事業、一般4事業の計11事業を計画しています。※は今後実施予定の事業

○小中学生 ・チャレンジキャンプ 9人

・ちびっこキャンプ 19人

※ウィンターキャンプ 24人 (予定)

○家族 ・春のファミリーハイキング 10家族 31人

・夏のファミリーハイキング 7家族 28人

・秋のファミリーハイキング 5家族 15人

※冬のファミリーハイキング 6家族 (予定)

○一般 ・春の太平山前岳登山 (雨天中止)

・初めてのキャンプ 32人

・秋の太平山前岳登山 18人

※スノーウォーキング 20人 (予定)



【春のファミリーハイキング】

にかほ市

にかほ市民文化祭2025

本事業は、市民が自らの芸術文化活動の成果を発表する場であるとともに、芸術文化に触れ親しみ、鑑賞する機会を提供することを目的とし、地域の文化を育み、交流を深める機会でもあります。にかほ市が誕生した平成17年から始まり、今年で21回目を数えました。

10月18日（土）・19日（日）には、吹奏楽やダンス、舞踊等を披露する「発表部門」を、11月1日（土）から3日（月）には絵画や手芸などの作品展示をする「展示部門」を実施しました。

発表部門では各団体の発表に加え、市制20周年記念イベントとしてにかほ市出身の芸者・和丸さんに日本舞踊を披露していただきました。訪れた観客は、凛々しいながらもあでやかな舞に魅了されました。新規に出演した3団体も、舞台に新鮮な風を吹き込んでくれました。

展示部門は設営を大きく変更し、園児・児童・生徒作品を一つの会場に集約したほか、会場を地区3公民館から2公民館としました。いずれも少子化等を踏まえた地域のにぎわい創出のための変更です。

仁賀保・象潟会場では作品展示のほかに体験コーナーを設け、金浦会場ではeスポーツ体験会を実施しました。また、発表・展示両部門にて飲食ブースを設置したところ、長蛇の列ができ、軒並み完売となりました。開催期間中、外は雨にもかかわらず、親子連れや友人同士、多数参加してくださったおかげで会場内は熱気に包まれ、大きな賑わいを見せました。

大潟村

台湾交流を通じた学びの輪

大潟村公民館では、「生涯にわたって生きる学びの提供」と「地域住民が主体的に関わり合い、共に学び、支え合う地域社会の形成」を目標に掲げ、各種講座を開催しています。

村民によって組織された「子ども海外交流事業実行委員会」は、国際理解を深め、国際感覚を身に付けた人材の育成を目的に、村内の子どもたちを対象とした海外交流事業を実施しています。これまで韓国の中学校との交流を実施していましたが、コロナ禍を経て、今年度からは台湾の中学校との交流事業を新たに始めることになりました。

そこで、公民館では夏休み期間中に計4回の「台湾講座」を開催しました。台湾訪問を予定している中学生を中心に、村民の方々にも参加いただいたおかげで、世代を超えた学びの場となりました。講座では、台湾出身の講師の方を迎えて、台湾の基礎知識や現地でのコミュニケーション等、テーマに沿って学ぶことができました。中学生たちは講義に熱心に耳を傾け、台湾での交流に期待を大きく膨らませていました。

また、村民の中には、講義終了後に講師の方に積極的に質問をしたり、台湾について参加者同士で語り合ったりする姿も見られました。

今後も年齢を問わず、誰もが学び続けられる学習機会の提供に努めていきたいと思います。



【園児・児童・生徒作品が集約された象潟体育館】



【「台湾講座」2回目の様子】

県教育庁生涯学習課

ビブリオバトル 2025 in AKITA

中学生・高校生ビブリオバトル大会は、発表者がお薦めの本の魅力を5分間で紹介し、2~3分間のディスカッションの後、聞いていた人たち全員で「一番読みたくなった本」(チャンプ本)を投票で決める「本の紹介コミュニケーションゲーム」です。

10、11月には県内7箇所(北鹿、能代、秋田、由利本荘、大仙、横手、湯沢)でビブリオバトル地区大会が行われました。中央地区は、10月13日(月)文化交流館カダーレで由利本荘大会が、同月18日(土)にふれあーるAKITAで秋田大会がそれぞれ開催されました。今年度も各地区で多くの聴衆の皆さんに参集いただき、中学生40名、高校生22名、総勢62名のバトラーによる熱いバトルが繰り広げられました。

そして、11月29日(土)には、秋田拠点センターアルヴェきらめき広場を会場に、各地区大会を勝ち上がった中学生バトラー7名、高校生バトラー6名が集結し、「ビブリオバトル 2025 in AKITA(秋田県大会)」が開催されました。「どうしたら相手にわかりやすく伝えられるか」「どうすれば相手の心に響くのか」、各自が選んだ本にかける思いを、身振り手振りを交えて発表し、全員が見事に聴衆を引きつけていました。

晴れの舞台での発表に緊張しながらも、自分が感じた本の魅力を一生懸命に伝えている姿が非常に印象的でした。投票の結果、中学生の部は『さくらのまち』、高校生の部は『クローズドサスペンスヘブン』がそれぞれチャンプ本に決定しました。チャンプ本を獲得したバトラーは、年明けに東京都で行われる全国大会に出場します。全国大会でのお二人の健闘をお祈りしています。

また、今年度は同会場で、小学生を対象にした「小学生ポップバトル」を開催しました。お薦めしたい本の魅力をポップにして表現し共有することで、読書のきっかけづくり、読書への関心・意欲や読書習慣の向上を図ることがねらいです。

県内各地から、想像力あふれる力作160点の応募があり、ビブリオバトル地区大会会場で展示・投票を行い、それぞれ優秀賞が選出されました。そして、その地区代表6作品による県大会での最終投票の結果、『かがみの孤城』のポップが今年度の最優秀賞に輝きました。

令和7年度の「チャンプ本」とポップバトル最優秀賞

【中学生の部】



【高校生の部】



【最優秀賞】

